

公共経済学の学習指針

平成15年度前学期
夜間主コース
金曜日 夜1・2限
対象：2年生以上
担当：古田俊吉

授業の目的

自由市場経済のメリットは自由と効率にあります。現実の経済は理想的な状態から大きく乖離しています。自由、効率、公平といった基準からよりよい状態へ移行するためには政府の介入が欠かせません。しかし、政府の介入は市場に新たな歪みをもたらします。

したがって、自由市場経済における政府の介入や管理はそれらのメリットとデメリットを比較考量して行う必要があります。

この授業では、こうした観点から、自由市場経済における政府の介入や管理の根拠は何か、どのような公共政策が望ましいか、政府の役割の限界は何か、などといったことを体系立てて解説します。

テキスト

常木 淳 『公共経済学 第2版』新世社

授業計画

授業はできるだけテキストに準拠して進めます。公共経済学の分析ツールは主としてミクロ経済学の理論であることから、ミクロ経済学についても補足していきます。

以下、テキストの主要な項目に沿って、授業計画の一応の項目を立てておきます。

項目はテキストと完全には一致していません。

1. 厚生経済学の基礎

完全競争市場は効率的資源配分を実現するというが、そもそも効率とは何か。

社会全体の経済厚生の評価は何によって行うのか。

1.1 交換の利益

- ・なぜ取引（貨幣と財の交換）が行われるのか。

1.2 厚生経済学の基本定理（1）

- ・効率的資源配分という場合の効率とは何か。
- ・パレート最適とパレート改善
- ・パレート最適性の条件

1.3 厚生経済学の基本定理（2）

「完全競争市場はパレート最適な資源配分を実現する」

1.4 社会的余剰

- ・社会全体の経済厚生の評価は何によって行うのか。

社会的余剰 = 生産者余剰 + 消費者余剰

1.5 権利・効率・厚生

1.6 市場の失敗

2. 公共財

公共財とは何か。公共財の存在によってなぜ市場の失敗が生じるのか。

最適なサービスの水準とはどの水準か。その水準をどのように達成するのか。

2.1 公共財の概念

- ・公共財とは何か。非排他性と非競合性
国防や警察、消防サービスは民間部門で提供できるか。
- ・公共財と市場の失敗

2.2 公共財の最適供給

- ・最適なサービス水準とはどのようなものか。どのように達成できるか。

- ・公共財の供給メカニズム
自発的供給、交渉による供給、リンダール・メカニズム、
ピヴォット・メカニズム、民主的投票による供給
- ・地方公共財

3．外部効果

外部効果とは何か。外部性の存在によってなぜ市場の失敗が生じるのか。
どのように解決すればよいのか。

- 3.1 外部性と所有権
 - ・外部効果とは何か。外部性の原因は何か。
環境、混雑、海や共有地と外部性。
- 3.2 外部性による市場の失敗
 - ・外部性の何が問題か。
- 3.3 外部効果の調整
 - ・どのように外部効果を調整すればよいのか。
相互交渉、税金・補助金政策、排出権取引
- 3.4 混雑外部性と共有地の悲劇
 - 道路混雑、共有地（海や山林）での乱獲や乱伐

4．産業の公共的規制

独占が生じる理由。規制の根拠は何か。
費用低減産業での望ましい価格設定とは何か。

- 4.1 規模の経済性と不完全競争
 - ・独占や寡占が生じる理由。
 - ・独占はなぜ悪い。
- 4.2 限界費用価格形成原理
 - ・資本が固定的な場合の望ましい価格設定はどういうものか。
- 4.3 長期限界費用価格形成と公企業の投資計画
 - ・資本が可変的な場合の望ましい価格設定はどういうものか。
- 4.4 企業数の規制
- 4.5 次善の規制
 - 平均費用価格形成原理、範囲の経済、ラムゼイ価格設定
- 4.6 非線形価格
 - ・完全価格差別、二部料金制
- 4.7 他市場の歪みと次善の規制
- 4.8 コンテストビリティ理論

5．費用便益分析

費用便益分析とは何か。なぜ必要か。どういう場合に有力か。
道路は私企業の採算ベースでは赤字だが建設される価値はある。どういう場合か。

- 5.1 費用便益分析
- 5.2 プロジェクト採否の基準
 - 採算性の原則、指数基準、社会的余剰原則
- 5.3 異時点間に渡る費用便益の評価
 - 割引現在価値、割引現在価値基準、内部収益率法、費用便益比率法
- 5.4 次善の経済における評価
- 5.5 社会的割引率
- 5.6 計画評価と富の再分配

6．租税の経済学

政府活動の費用を賄うには租税が必要とされる。租税と料金との異同は何か。
一定の税収が必要だとしたら、何にどれだけ課税するのが社会的に望ましいのか。
税制はどのように改革すればよいのか。

- 6.1 租税の効果と厚生費用
- 6.2 租税の種類と等価性
- 6.3 ラムゼイ・ルール
- 6.4 租税の漸進的改革

7．効率と公平

社会的公平をどのように定義するのか。効率と公平との間でどう選択するか。

7.1 社会的公平とは

7.2 所得分配の公平

7.3 資源配分と分配の公平

効率と公平のトレードオフ

7.4 公平か効率か

線形所得税のケース、非線形所得税のケース、個別物品税の導入 7.5 税制改革の展望

参考文献

テキストの 215 ～ 219 ページに参考文献の解説があります。参考にして下さい。

補助教材に関しては、過去に私が行った授業の講義ノートなどをホームページで公開しています。ミクロ経済学に関しては、PDF ファイルをダウンロードするなどして、自習して下さい。

ホームページのアドレスを記しておきます <http://www3.toyama-u.ac.jp/~furuta/>

成績評価の方法

期末試験の成績に出席状況、レポートの成績を加味して総合的に評価します。

オフィスアワー

特に設けません。2コマ続きの講義ですから、質問は講義の中あるいは講義の前後で十分できると思います。公共経済学・財政学の勉強に関して個人的な相談があれば、研究棟 404 研究室に来て下さい。

質問はメールでも受け付けます。 furuta@eco.toyama-u.ac.jp